

海外学生派遣事業 終了報告書

所属：生命科学研究科 基礎生物学専攻

氏名：林 誠

海外派遣先国：韓国

海外派遣先大学：Seoul National University（ソウル大学）

海外派遣期間：2008年 2月 1日～ 2月29日

報告年月日：2008年 3月 3日

○海外派遣先大学について

ソウル大学は、ソウル南部の郊外に位置する韓国の国立大学です。冠岳山の麓に位置しているため、大学内は坂道ばかりで、休日には大学内でたびたび登山客を見かけることもあります。また、ゴルフ場であった敷地を利用しているため、キャンパスは非常に広々としており、現在も新校舎が建設されています。

受け入れ教官のHan教授の研究室は、遺伝子導入ニワトリの作成と、鳥類の生殖細胞の発生メカニズムの研究を世界に先駆けて行っている研究室です。

実験に用いるニワトリやウズラなどは、ソウルから地下鉄とバスで1時間弱の水原（スウォン）市にある農場で飼育されており、農場の方にも研究室が設けられています。

○海外派遣前の準備

[志望動機]

大学院では、基礎生物学研究所の小林教授のもと、ショウジョウバエの生殖細胞発生メカニズムの解析に従事してきました。学位取得後、農学への応用性の高いニワトリを用いて鳥類の生殖細胞発生メカニズムの研究に従事したいと考えてきました。論文などで、近年、鳥類の生殖細胞について精力的に研究を行っている研究室として、ソウル大学のHan教授の研究室のことを知り、学位取得後ポスドクとして行ってみたいと思いました。

しかし、これまで周囲に韓国にポスドクとして留学された方はおられず、韓国の研究環境や研究室の様子、さらには生活環境などがどのようなものなのか想像がつかず、可能なら事前に短期間訪問してみたいと考えて、短期海外派遣事業に応募するに至りました。

[受け入れ先教官との連絡]

受け入れ先教官のHan教授との連絡は電子メールで行いました。まず、「学位取得後ポスドクとして行きたいこと」、「その前に、所属大学のfellowshipで短期間、研究室を訪問したい」という二点を明記し、大学院での研究のabstractとcurriculum vitaeを添付した電子メールを送りました。

先方からは、すぐに快諾を得ることができました。また、Han教授が学会で来日した際にも一度お会いして話をする機会を持つことが出来ました。

[渡航の準備]

宿泊場所としては、大学所有のロッジを希望したのですが、条件が合わず認められませんでした。そのため、先方が近くのホテルを手配してくれました。

その他、パスポートの申請、航空券の手配、海外留学保険への加入手続きなどを行いました。韓国へは最大90日までビザなしで滞在可能なため、今回はビザの取得は行いませんでした。

○海外派遣中の勉強・研究

今回の派遣の主な目的は、ポスドクとして行きたいと思っている研究室を短期間訪問し、Han教授とディスカッションを行うとともに、研究環境や研究室の様子などを見てくることでした。

Han教授は副学部長を兼任されているお忙しい方でしたが、現在、研究室で行っているプロジェクトの進捗状況や、今後の方針などについて教えていただくことが出来ました。また、今後ポスドクとして伺ったらやってみたい実験のアイデアを聞いていただくとともに、色々助言をいただくことも出来ました。

Han教授と共同研究をされている、同じ大学のKim教授ともディスカッションする機会を持つことができ、現在行っている「ニワトリの生殖細胞で発現する遺伝子の網羅的解析」について色々教えていただくことができました。

研究室では、学生やポスドクの方から、各自が行っている実験について教えていただき、また、実際に実験を行っているところを見せてもらったり、体験させてもらったりすることが出来ました。

冠岳キャンパスの方だけでなく、農場のある水原の方にも数回行く機会があり、ニワトリの人工授精や細胞培養の様子を見学するとともに、卵への注射などを体験することが出来ました。

1ヶ月という短い期間でしたが、実験の様子やテクニック、また、研究室の雰囲気などを肌で感じる事が出来ました。

○海外派遣中の勉強・研究以外の活動

平日は、研究室の学生と食事や飲みに行くことが多く、韓国での生活や研究室のことなどについて、話を聞くことができました。また、そこで色々な韓国料理も味わうことが出来ました。

休日には、ソウル市内を観光してきました。ソウル市内は地下鉄が網目のように走っており、料金も非常に安いので、気軽に観光することが出来ました。景福宮や徳寿宮、南大門など、韓国の歴史的文化建造物を訪問し、韓国の文化に触れることができました。

また、韓国を訪れる前から、ソーシャルネットワークで知り合い、色々教えていただいていたソウル在住の日本人の方々（ソウル大学の学生の方もおられました）とお会いすることができ、日本人からみた韓国の生活についてお話を聞くことが出来ました。

今回の韓国訪問で、違った文化に触れ、多くの方と交流を持てたことはとてもいい経験になりました。

○海外派遣費用

今回の派遣費用は、当事業による助成金の上限額と、不足分は自費でまかなうことになりました。

今回は1ヶ月と短期だったため、大学の寮を利用することができず、ホテルに滞在することになり、予想外に出費がかさみました。食事は、学食を利用すると一食300円くらいで、研究室で出前を利用すると600円くらい、外食すると1000円くらいでした。

韓国の公共交通機関の料金は非常に安く、地下鉄と高速バスで1時間くらいかかる、農場がある水原まで250円くらいで行くことができました。このため、韓国内での交通費は非常に節約できました。

留学先が韓国だったため、航空券代がそれほどかからなかったこともあり、全体としては、助成額をそれほど大きくオーバーすることはありませんでした。

○海外派遣先での語学状況

研究室内での、主な言語としては韓国語が使われていました。僕とディスカッションするときや、会話をするときには英語を用いてくれるのですが、研究室の他のメンバーのディスカッションに参加し、そこから色々なことを学ぶためには韓国語が必須であると痛感しました。

生活面においても、特に会話を必要としないコンビニなどでの買い物は問題なくこなせましたが、韓国語で会話が出来ず、メニューも読めないといった理由から、一人でレストランなどに入って食事をすることは出来ませんでした。

やはり、研究と生活の両方において、韓国語の必要性を感じました。

○海外派遣を希望する後輩へのアドバイス

外国に行くこと自体が初めてだったこともあり、日本語が通じない世界、文化が違う世界、すべてが新鮮でした。海外の研究室で、日頃とは違った分野の研究に触れ、その国の大学院生たちと話をし、海外の研究室の雰囲気味わってみるというのは非常にいい経験になりました。

この海外派遣事業は、自分が行っている研究について海外の研究者とディスカッションを行うというだけでなく、自分が将来やってみたい研究に触れてみることや、卒業後に留学してみたい研究室を短期訪問してみるといった多方面で利用することができるシステムです。大学院生という限られた時間の中で、数週間研究室を離れるというのは難しいことなのかもしれませんが、積極的にこの事業を利用して、世界観を広げてみることは決して無駄ではないと思います。

日頃、研究室もしくは研究所という限られた世界で生活しているため、新しいところに行って、新しい人たちと交流をもてることのすばらしさを改めて感じる事が出来ました。機会があれば、是非参加してもらいたいと思います。



冠岳山



College of Agriculture & Life Sciences
研究室がある建物。



水原の農場

左の青い屋根の建物が研究室。右の茶色い壁の建物
の中でニワトリとウズラが飼育されている。
手前の広場では、実験の合間に野球をしたり、サッ
カーをしたりすることができる。



景福宮

守門将交代式が行われていました。



南大門

火事で燃えてしまう、数日前に訪れていました。